

令和6年度 AJEEP スキーム5においてインドネシアでCN診断を実施しました

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、資源エネルギー庁の委託を受けて令和6年9月17-19日の3日間、本年度のAJEEP(ASEAN-JAPAN Energy Efficiency Partnership)スキーム5活動の一環としてユニ・チャームインドネシアにおいてCN診断を実施しました。事前調査、現場踏査によるデータ採取およびデータ分析を行い、CN対策の一次案を提案しました。

- (1) CN プロジェクト形成、ガイドライン、実践的 CN 診断手順の説明
- (2) 事前調査データによるインタビュー調査、現場踏査、データ測定とデータ分析
- (3) 現場踏査結果の分析、CN診断結果の説明とCN対策の一次案の提案



会議風景



CN診断



集合写真

今年度のAJEEPスキーム5プログラムの一環として、ASEAN域内でCN診断を実施しました。本年度は産業部門2件のCN診断を予定しており、最初の診断先として、ユニ・チャームインドネシアを選び、9月17-19日の3日間、CN診断を実施しました。CN診断に先立ち、CNプロジェクト形成・CNガイドライン・実践的CN診断手法を説明した後、実際の工場でCN診断を実施しました。工場のエネルギー管理士・インドネシア政府関係者（MEMR）・ACEが参加して、日本の専門家による診断指導を実施しました。

- (1) CNプロジェクト形成・CNガイドライン・実践CN診断実践手順の説明を実施して、CN診断担当者の理解が得られました。
- (2) 事前調査データに基づくインタビューでECCJからの疑問内容を確認しました。
- (3) 現場踏査による設備稼働状況の確認、データ測定、データ分析を実施し、8件のCN対策および省エネ対策の一次案を提案しました。この提案内容についてCO2削減量の計算を実施し、中長期計画の策定に向けて診断先と討議を継続します。
- (4) 今回の結果をまとめて12月中にオンラインミーティングを実施し、2月の中間チェックミーティングまでにCN診断結果のレポート作成を支援していきます。
- (5) 会社の生産計画・投資計画などを合わせて考慮し、来年8月にCO2削減に向けた中長期計画の策定を目指します。その中で、CO2削減の日本の新技術導入を推奨し、日本企業の裨益に貢献していきます。
- (6) ユニ・チャームインドネシアのある工業団地内には多くの日系企業が存在し、今後のCN診断候補になる企業が多数存在しています。今回のCN診断結果を横展開し、CNプロジェクト形成を広げていきたいと思えます。